

1. 藤林靖久：分子イメージングの概念. 日本臨牀. 65(2), 199-203, 2007,2.
2. 高村徳人, 徳永 仁, 帖佐悦男, 川井恵一, 有森和彦, 大井一弥：薬剤師が“薬術”を獲得することの重要性. -薬学的分布診断法（血清内探索法）と攻めの薬物投与方法-. 医薬ジャーナル. 43(3), 963-973, 2007,3.
3. 小野口昌久, 高山輝彦, 川井恵一, 森 厚文：ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器. ライフサイエンスにおけるイメージング V. CdTe 半導体検出器搭載小型ガンマカメラ：基本性能と実験動物評価. RADIOISOTOPES. 56(3), 131-139, 2007,3.
4. Sadato N, Nakashita S, Saito DN: Pathways of tactile-visual crossmodal interaction for perception. Behav Brain Sci. 30(2), 218-219, 2007,4.
5. 藤林靖久：薬物動態の新しい潮流 1.概論, 機器. 臨床薬理. 38(3), 135-138, 2007,5.
6. Kudo T : Metabolic imaging using PET. Eur J Nucl Med Mol Imaging. 34(Suppl), S49-S61, 2007,6.
7. 高村徳人, 徳永 仁, 帖佐悦男, 川井恵一, 藤田健一, 有森和彦：薬剤師に必要なタンパク結合置換術. 薬学雑誌. 127(11), 1805-1811, 2007,11.
8. 清野 泰：ノルエピネフリン・トランスポータをイメージングする分子イメージングプローブの開発：機能性精神疾患の病態解明を目指して. 北陸アイソトープ研究会誌. 9, 33-38, 2007,12.
9. 鹿野直人, 川井恵一, 中島修一, 小倉正人, 小谷高志, 相良順一, 酒井正春, 窪田宣夫, 岩村幸雄, 石川演美：<sup>18</sup>F 標識アミノ酸製剤開発の戦略と展望：ポスト FDG として期待される PET 用分子プローブ. 茨城県立病院医学雑誌. 24(3), 93-100, 2006,12.